

我が事・丸ごと

地域共生社会

第3回 暮らしのどんな困りごとにも対応できる仕組みづくり

3回目となる今回は「暮らしのどんな困りごとにも対応できる仕組みづくり」に関する2つの取り組みについて紹介します。

支援機関が連携して支援のコーディネートを行う「多機関協働事業」

育児や介護、障がい、生活困窮など、さまざまな分野の課題を抱えた人や世帯に、複数の支援機関が連携しながら、きめ細やかな支援を行なっています。支援にあたっては、各相談支援機関を始め、地域住民や民生委員、弁護士など、さまざまな関係者が役割分担や支援の方向性を話し合っています。

出席者がチーム一丸となって、必要な支援は何かを考えています！



参加する本人の希望に寄り添った体験内容を一緒に考え、実践するので、前向きに取り組むことができます！



農業体験の様子

社会とのつながりづくりに向けた支援を行う「参加支援事業」
また、社会とのつながりに不安を抱える人が安心して社会参加が出来るように、地域の社会資源を活用して、オーダーメイドの支援を行なっています。
社会資源は、地域活動から企業の業務まで、多種多様です。
さまざまな個別ニーズに対応できるように、既存の社会資源を把握するだけでなく、新たな社会資源の発掘に向けて、さまざまな企業や地域に協力してもらえよう働きかけています。

高松市では「ほっとけん市民 みんなでつくるほっとかんまち 高松。」をスローガンに福祉などの地域生活課題を解決する「地域共生社会の構築」を目指しています。
誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて、自分ができることは何か、考えてみませんか。

インタビュー

社会とのつながりを回復する
第一歩をサポートします

私たちは、

参加支援事業に参画し

てもらえる

支援機関の

発掘や相談

者とその支

援機関との

マッチングを

行なってい

ます。マッ

チングにあ

たっては、

相談者一人

一人が活躍

できる場所

を一緒に探

すため、丁

寧なヒアリ

ングを心が

けており、

本人の気持

ちをまず第

一に考え、

活動場所につ

ないでいま

す。

そして、つ

ないだら終

わりではな

く、つない

だ後も見守

りを続けて

いくなど、

社会に出る

ことを不安

に思っている

人たちが勇

気を持って

活動し続け

られるよう

、これからも

精一杯サポ

ートしてい

きたいです。



一般社団法人 hito.toco
田尾 真都香さん(右)
内升 宏美さん(左)

お問い合わせ

健康福祉総務課

地域共生社会推進室

☎ 839・2372

HPは
▼こちら



誰もが地域の中で、ありのままの姿で生きていける社会を目指します

ナザレの

村は、知的

障がいの人

を中心に、

精神障がい

や身体障がい

の人が通所し、

さまざまな活動

をする施設

となっており、

その中で、ひ

きこもりなど

日常生活に

おいて生き

づらさを感

じられている

人たちが、

ありのまま

の姿で活動

できる居場

所となれば

と思い、参

加支援事業

の活動場所

として農業

体験の場を

提供しまし

た。

今後は、農

業体験の場

だけでなく

、ナザレの

村で行なっ

ている他の

活動にも参

加してもらう

など、通所

している人

たちとの交

流を深めな

がら、相乗

効果が生ま

れる活動が

広がって

いければと

思っています。



社会福祉法人 ナザレの村
野町 雷音さん